



発達段階に応じた教育環境整備が肝要

竹村 仁司議員

中学校の規模の適正化を優先

教育部長

《佐屋地区》			《八開地区》			《佐織地区》		
学校名	人数	学級数	学校名	人数	学級数	学校名	人数	学級数
永和小学校	249	11	八輪小学校	93	6	北河田小学校	254	11
市江小学校	179	6	開治小学校	71	6	勝輪小学校	170	7
佐屋小学校	524	17	八開中学校	88	3	草平小学校	208	8
佐屋西小学校	209	8				西川端小学校	213	8
永和中学校	163	6				佐織中学校	241	8
佐屋中学校	495	14				佐織西中学校	232	8

《立田地区》		
学校名	人数	学級数
立田南部小学校	99	6
立田北部小学校	107	6
立田中学校	129	5

令和3年10月1日現在の児童数・学級数

▲令和9年度学校別児童生徒数などの推計

問 適正化の要件として、発達段階に応じた教育環境整備が肝要である。特に中学校を優先して着手するとあるが、具体的に。

答 中学校は、小学校に比べて小規模校のデメリットが多くある。発達段階に応じた教育環境の整備を進めていくためには、中学校の規模の適正化に優先して取り組む必要がある。

問 基本方針に基づき、改めて協議が必要との提言がある。今後どのようにされるのか。

答 基本方針に基づき今後の協議を進めていくため、小中学校適正規模等並びに老朽化対策検討協議会を設置し、必要な予算を今議会に上程している。

問 学校は、地域の施設として検討状況をどのように市民へ情報提供するのか。

答 学校施設は子どもたちだけでなく、地域にとつて重要な施設である。ホームページで公表するなど情報発信していく。

問 基本方針では中学校の小規模校の課題解消を指摘している。老朽化からは、佐屋中学校、立田中学校が対象と考えられる。学校別児童・生徒数及び学級数の推計から見ると、八開中学校、立田中学校の適正化が考えられる。

答 この3校に対する適正化について見解は、立田中学校は、老朽化度合いを示す評価値も高いことから、改築計画の策定を早急に実施することが提言されている。八開中、立田中では、いずれも学級編制の下限としている6学級を維持することができない状況であり、学校規模の適正化を早急に進めていく必要がある。